

# 新・介護百人一首 2024

## 入選おめでとうございます

「新・介護百人一首2024」として介護にまつわる短歌の募集があり、通所リハビリテーション利用者様が、応募者 5,783 人の 12,440 首の中から見事に入選作 100 首に選ばれました。

日々、短歌を詠まれており、新聞社へ投稿し何度も掲載されています。これからも素晴らしい趣味を続けて頂きたいと思います。



### 母の日の

カーネーションとも判らずに

老婦人は花をむしり続ける

辻 利雄（八十六歳）

一時期入所していた施設の中での情景です。

記念日のカーネーションの花を老婦人は花と認識せずに

無心にむしり続ける姿に衝撃を受けました。人は認知症に

なると、きれいな花すらわからなくなってしまうものだと

実感しました。

（新聞掲載作品）

- ・ 人生にロスタイムが若しあれば 八十路を生きる今がその時
- ・ ペーロンの漕ぎ手を囃す 鐘の音が 今年も秋の水面を走る
- ・ 汗物を両手で吸えた嬉しさも 覚めれば悲し 麻痺の手を見る
- ・ 尺玉の腹まで響く音残し 三年ぶりの夏は過ぎ行く
- ・ 田植え機の残した陽に植えていく 早苗持つ手に初夏の風吹く